

平成30年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市都市公園（大畑中央公園）及びむつ市兎沢スキー場	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育振興会
	代表者	理事長 奥 川 清次郎
	所在地	青森県むつ市大畑町中島108-5
指定期間	平成30年 4月 1日 ～ 令和 2年 3月31日 (2年間)	
指定管理業務の概要	<p>管理業務の目的 むつ市の体育スポーツ振興を図るとともに、生活や文化の向上に寄与することを目的とする</p> <p>管理業務の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大畑中央公園及びむつ市兎沢スキー場の施設維持管理に関すること</li> <li>・大畑中央公園及びむつ市兎沢スキー場の広報及び利用促進に関すること</li> <li>・体育並びにスポーツを通して地域住民の健康及び体力の向上のため施設提供に関すること</li> <li>・上記に掲げるもののほか施設管理上必要と認められる業務に関すること</li> </ul>	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	48,840	48,489	▲351
うち利用料金額	2,300	1,791	▲509
うち電気使用料等	0	84	84
うち雑収入	0	1	1
うち指定管理料	46,540	46,540	0
支出合計 (B)	48,840	50,773	1,933
うち人件費	24,493	24,525	32
収支差 (A-B)	0	2,284	2,284
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>利用料収入については、前年度を下回った。</p> <p>利用料収入の大半を占めるプール施設において、シニア料金を新設し利用者獲得に努めた。積極的な広報活動により、お得なシニア料金が周知され、シニア世代を含む一般利用者が増加した。</p> <p>又、利用者ニーズに対応するため冬場の営業を考慮して、利用日数を試験的に12月24日まで延長した。</p> <p>しかし、全体的に児童生徒の利用が減少したことから、利用者数は前年度対比減となった。</p> <p>児童生徒の利用の機会を増やすとともに、新たな利用の開拓も必要であるため、温水プールの利点を強調した施設案内等により、積極的に利用の促進を図りたい。</p>		

	<p>利用者が減少すると、利用料収入も伸び悩むことから、常態として人件費を抑制するとともに、意識を高めて経費を縮減する工夫をして効果的な運営に努めた。又、快適な空間の提供ができるよう利用者目線での接遇にも努めた。</p> <p>野球場はチーム数減少に伴う大会の縮小により、利用者数は前年対比減となったが、一般利用が増加したことから、利用料は前年度同様であった。</p> <p>庭球場は、部活動の利用がなくなり、児童生徒の利用が大幅に減少した。</p> <p>陸上競技場の利用者数は前年同様であったが、一般のサッカー利用が増えたことから利用料が増加した。</p> <p>兔沢スキー場の利用については、平成18年度から指定管理が始まって以来、初めて2,000人を超える結果となった。例年以上に小雪で恵まれない環境だったが、スキーやスノーボードのロープトゥ利用は少ないものの、食堂開設など利便性の向上に努めたことから、そり乗り場の充実により、家族で過ごす空間は認知されたようである。</p> <p>又、スキー場において自主事業のスキー教室や食堂開設などを通じて、施設利用の促進を図った。又、恒例のゲレンデまつりを開催して市民へ施設開放を実施した。</p>
--	--

### 3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増減 (②-①)
	プール	9,600	8,871	▲729
野球場	2,600	1,841	▲759	
庭球場	800	302	▲498	
陸上競技場	4,000	4,348	348	
スキー場	1,700	2,013	313	

利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（**有**・無）

意見箱を設置し、利用者ニーズの収集を実施した。又、夏休み期間中及び12月にアンケートをとるなどして利用状況の確認を行った。自主事業開催時にもアンケート調査を行った。

受けた意見等については、全職員で対応し、改善点については速やかに回答を掲示した。意見の内容については、好意的な意見が多いが、中には要望事項も含まれているため速やかに対応した。利用者からの苦情は、真摯に受け管理者側の真意を丁寧に説明することで理解と協力を得られるよう、誠意を持って対応した。

### 4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収 入	支 出
スポーツ振興事業・水泳教室	1,516	1,108	848
スポーツ振興事業・初心者スキー教室	134	164	206
スポーツ振興事業・ルディックウォーキング教室	17	20	17
食堂事業（ヒュッテ食堂実数）	1,810	382	435

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価（ A：優良 B：適正 C：改善要 ）

評価項目	自己評価	市の評価
(1)施設設置目的に添ったサービス向上に関する取り組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	A	A
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	A
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	A	A
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	A	A
(2)利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	A	A
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	A	A
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	A
(3)効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	A
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	A	A
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	A	A
(4)施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営にあたる人員配置は適正であったか。	A	A
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	A	A
④利用料金の收受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	A	A
(5)平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	A
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	A

6. 指定管理者総合評価

事業経営については、利用者を確保し利用料収入を獲得するためには、利用促進が不可欠であるとの意識を共有し取り組んだ。併せて、収支については、収入額、利用統計、使用量等の過去比較実績と検証しながら全体経費を抑制することで不測の事態を考慮した運営を行った。

施設管理におけるコスト削減のため、承認を受けて春にプールの水銀灯を LED に変えた。電気の使用量が減少したことで、その効果を確認できた。

ただし、電気料金については、加算される調整額等が増加傾向にあることから、支出額は前年と変わらなかった。

修繕については、大きな費用負担はなかった。日常点検や定期点検による早めの処置、又は修繕により安定した適切な維持管理に繋がっていると考えている。

プール施設の 12 月の運営経費を捻出するため、各月の燃料についても使用量を確認し、電気や水道についても使用記録等の確認並びに、声掛けを徹底することで節減に努めた。しかし、燃料単価も上昇傾向にあり、今回の指定期間当初と比べると灯油の単価は、60円から75円に増加しているため、施設運営にかかる支出は増加した。

プール施設にあっては、今期設定したシニア料金は、一般・シニアを含めた区分において前年

度より167人増加した実績になった。

又、自主事業の水泳教室は昨年と比べて425人増加した。女性限定の水泳教室を新たに加えるなど、開催日を増やしたことによる。

自主事業により、施設の活性化が図られるよう、プールやスキー場施設の利用機会の拡大に繋げる努力を継続したい。又、自主事業の実施により、指定管理事業の利用者数の増加とともに収益力が高まることも期待したい。

今期は当該施設及び地域の魅力をアピールするため、秋に2回のノルディックウォーキング教室を開催し、紅葉の薬研や大畑海浜公園をウォーキングした。これからも継続・拡大できる事業である。

併せて、利用の機会を増やすために自主製作のチラシを作成し、市内の小学校や幼稚園、保育園に配布した。

施設の管理について、施設の使用目的に沿った運営を実施した。利用促進については、ホームページやエフエムアジュールで情報を発信したほか、自主製作のチラシを配布するなど施設の周知に努めた。

管理運営するに当たり、職員一人ひとりの意識向上に向けたミーティングや研修の充実に努め、利用者目線での接遇に取り組んだ。特にプール監視については、遊泳中の安全はもちろん、更衣室の巡回や声かけを充実させた。

職員間の連携にも力をいれ、ヒヤリハットはミーティングで確認、ノートに記録することで情報の共有に努めた。併せて、事故防止、危機管理、就業意識や資質の向上については、適時の従事員研修等で徹底した。

今後も利用者ニーズを把握し、利用のきっかけを提案するとともに、指定管理者に求められる、施設の活性化、利用の促進、サービスの向上、並びに適切な維持管理による施設の運営。加えて、施設の価値を高めるため努力する所存である。

## 7. 市の所管課総合評価

利用者増が見られたのは、陸上競技場とスキー場の2施設のみとなったが、スキー場については、継続した広報活動とイベント企画が実を結び、2,000人を越える利用者数となったと考える。引き続き、公園施設、プール施設をはじめ、下北管内の小学校等への自主チラシの配布等の地道な広報活動を実施し、施設の良さを前面に打ち出していきたい。

自主事業では、4つの自主事業を展開しているが、紅葉の薬研や大畑海浜公園を会場に実施したノルディックウォーキングは、継続性のある自主事業であり、現在は比較的小規模な事業ではあるが、新たな顧客を獲得し、利用者数を伸ばせるよう工夫をしていただきたい。また、水泳教室においては、引き続き関係団体との連絡・調整を密に、より良い教室を実施し、さらに利用者数を伸ばしていきたい。その他、次年度において、むつ市教育振興会の特色を活かした、新たな自主事業の展開を期待する。

最後に、平成30年6月発生の草刈業務中における飛び石での事故を受け、このようなB評価とした。しかし、事故後の対応が迅速、かつ、被害を受けた方への対応に誠意があったと考えている。今後は防止策を講じ、無事故を徹底していただきたい。